



市民との対話集会（身近な生活環境）

対話集会とは

「地域の課題は市民の声の中にある。」との考えのもと、現場目線で、施策を推進していくことや、多くの市民の方が、市政やまちづくりを自分事として考え、行動する気運の醸成を図ることを目的として、市民と同じ目線に立ち市政やまちづくりを語り合う場です。

今年度は、次世代の思いを紡ぐ対話集会を2回、テーマ別対話集会を6回開催しています。

テーマ別対話集会～身近な生活環境編～

身近な生活道路や公園等の除草・除雪等の環境維持活動について、市民と行政による協働や連携強化、新たな担い手が活躍できる仕組みと一緒に話し合いました。

日時：11月5日（日）13：00～15：00

場所：西市民プラザ

参加者：発言者6名 傍聴者8名

テーマ：①除草・清掃等について

②除雪について

③環境活動について



主な意見

【除草・清掃】

- アダプトプログラム⇒事前登録、回数制限、対象等の制約が多く活用しづらい
- 入札制度⇒地域貢献度の高い会社に対して入札や総合評価の加点割合を増やしてもらえたら、地域貢献する会社も増える
- 高校生のボランティア活動⇒PRを行い活動範囲を広げ他校との連携もしたい
- 海岸清掃活動⇒地元やハングライダー協会員の約150名で1500袋を集めた実績がある。
⇒沿線の所有者不明家屋も課題⇒民法が改正され一定の場合には訴訟提起なしに枝を切除できるようになった。
- コロナによる地域活動の休止⇒活動の再開や継続のための工夫が必要で模索中。
- 地域の活動⇒「楽しい活動」をキーワードに実施している。例えば「花いっぱい運動」等
⇒自治会の範囲を超えた草刈も実施し、行政職員も助けてくれた。
⇒環境活動が次に継承できるかが不安
- 除草の負担軽減⇒刈った草の処分（袋詰め作業）の負担が非常に大きい。搬入方法の検討を。

【除雪】

- 建設業界で運転手の確保が課題⇒市内の舗装業者に安定した仕事が無い事も要因の一つと考える。
- 総務省HPに「特定地域づくり事業組合」の取組みが紹介されており綾部市、京丹後市で実施中
- 60代の（有志）が中心で実施しており、通学路の除雪等があるため、保護者に除雪登録を呼びかけているが登録者が増えない。
- ボランティア除雪継続のモチベーションは「ありがとう」⇒隠れたヒーローを表彰してほしい
- 雪捨て場⇒河川や水路は不法投棄と言われ困っている。身近な雪捨て場の確保が必要。
- 歩道除雪⇒通学時に歩道の雪で困っていたが、話を聞き自分達で出来る事を考えたい（高校生）

【環境活動のまとめ】

（市長）

- 人材確保は市職員でも課題となっており、北部5市2町でも取組みを進めているが調整が難しい
- 雪捨て場について各地域で確保できないか制度を研究したい
- 地元で結成している「除草隊」「除雪隊」は自治会費から支出し有償としている
⇒無償の活動は人が変われば継続しない。
⇒環境活動の継続に何らかの補助制度の検討をしたい。

（杉岡先生）

- 舞鶴市の「市民と対話する姿勢」はとても大事だし評価できる。
- 話し合いによる成功の循環サイクル
①関係の質⇒②思考の質⇒③行動の質⇒結果の質⇒①
を意識し対話集会を継続していただきたい。

